

(10) 四 国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

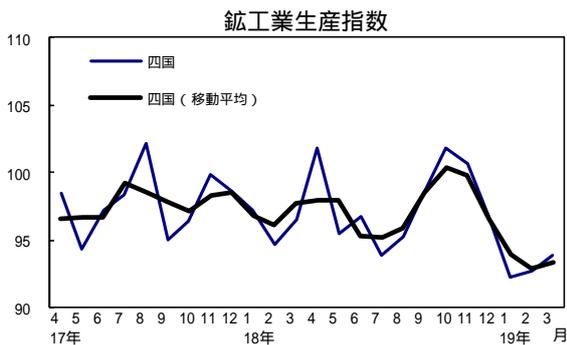
前回からの主要変更点

	前回(平成31年2月)	今回(令和元年5月)
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>	弱さがみられるものの、 <u>緩やかな回復基調</u>
個人消費	持ち直しの動き	<u>底堅く推移</u>

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

1 - 3月期には、化学・石油石炭製品は、中国経済の減速の影響等もあり、減少した。電気機械は、減少した。食料品は、減少した。はん用・生産用機械は、車両搭載型クレーン等の生産減から、減少した。非鉄金属は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
化学・石油石炭	22.9	22.0	15.8	5.8	3.7	4.5
電気機械	15.8	3.5	8.3	10.0	4.1	17.9
食料品	10.5	0.6	2.4	1.6	1.9	2.8
はん用・生産用機械	10.0	4.8	7.4	0.8	5.2	3.3
非鉄金属	8.0	2.8	12.9	3.9	10.1	3.9
鉱工業	100.0	4.2	6.9	4.9	0.5	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 2010年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。

2. 四国の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は底堅く推移している。

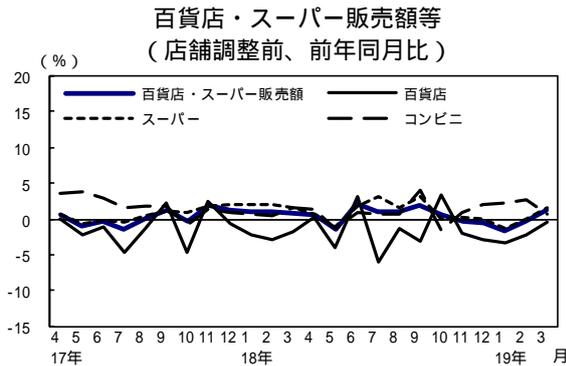
(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.3%減、2月は同0.2%増、3月は同0.7%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、「衣料品」が暖冬の影響で振るわなかったこと等を受けて、前年を下回った。2月は、引き続き冬物衣料の動きが鈍かったことを受けて、「衣料品」が振るわなかったこと等から、前年を下回った。3月は、月後半に気温が低い日が多く、「衣料品」のうち、春物衣料の動き全般に鈍かったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、1-3月期は、「飲食料品」のうち、総菜、肉類、鮮魚が堅調に推移したこと等から、前年を上回った。

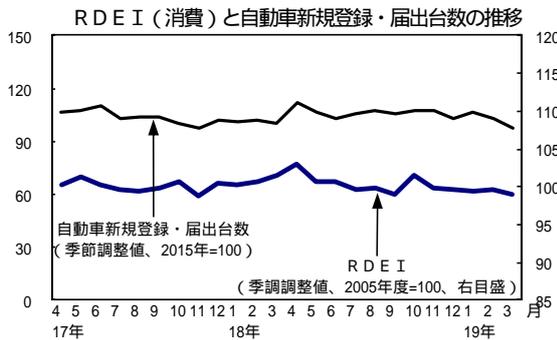


	2019年1-3月	2019年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	0.3	0.2	0.7
百貨店・スーパー(*2)	0.3	1.7	0.4	1.3
百貨店(*2)	2.0	3.3	2.2	0.4
スーパー(*2)	0.2	1.2	0.0	1.7
コンビニ(*2)	1.9	2.3	2.8	0.8
乗用車(*3)	0.5	3.3	0.8	3.9
(季節調整値)(*3)	4.1	1.8	2.1	5.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

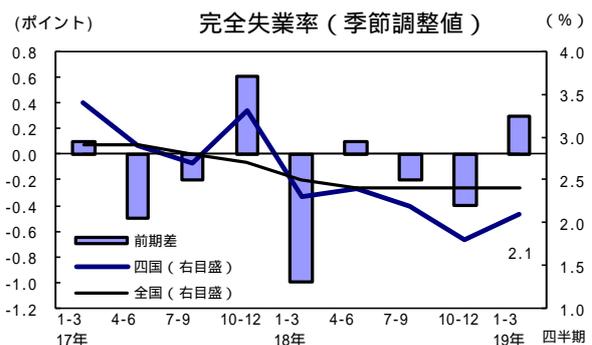
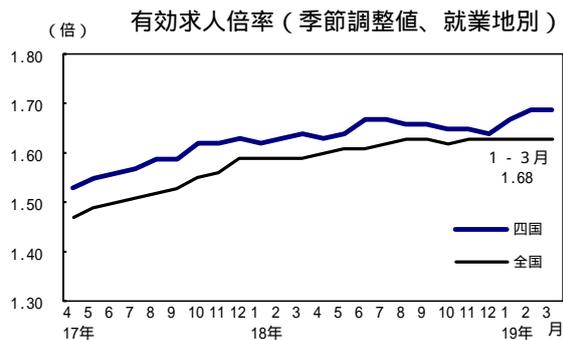
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。